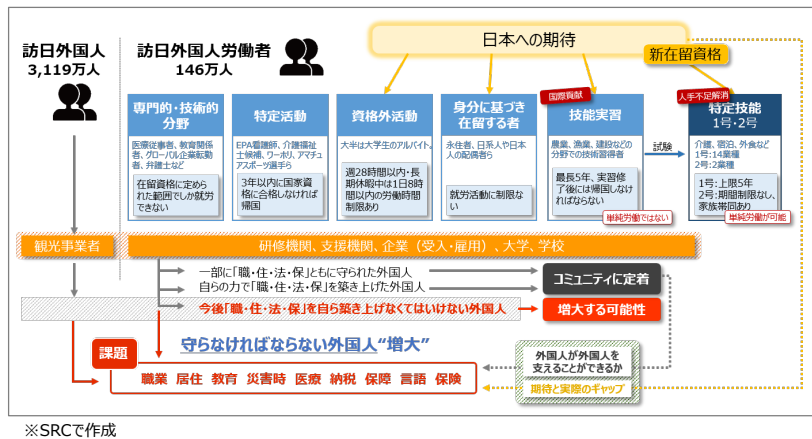


SRC 自主調査の調査結果について

在留外国人総合調査 「在留外国人のコロナウイルス対策について」

■ 趣旨

- わが国では、在留外国人の受け入れに関して、出入国管理法が2018年12月に改正され、2019年4月から施行されています。この改正法は、在留資格「特定技能1号」「特定技能2号」の創設、出入国在留管理庁の設置等を内容とするもので、これにより多くの外国人が我々と一緒に居住し、働く環境が整備されていくことになります。一方で、こうした外国人を受け入れる我々としての「受入準備」や「人権意識」「多文化共生意識」等課題を抱えています。また、外国人側も「日本の規範知識」「教育、言語、雇用、医療・保健・福祉、災害」等の知識も不足しているのが現状です。
- わが社では、これまで多くの自治体での「健康・介護・福祉・共生・観光・防災・教育」等の計画策定に携わっています。また、SDGsの理念の元、持続可能な社会を目指して、取り組む事業にもこれらの視点を含めています。こうした現状の中で、今後増加し一緒に生活を共にしていく「在留外国人」について総合的な調査が少ないため、「在留外国人を対象とした総合調査」を実施いたしました。
- 折しも、わが国では、2020年4月7日に発出した新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言（7都府県）が4月16日に全国に拡大しました。本調査は、下記の調査概要のように2020年4月に概ね一か月間をかけて実施したため、「在留外国人のコロナウイルス感染症」に関する設問も含めてその動向を確認したものです。
- 今回は「在留外国人を対象とした総合調査」の内、「在留外国人のコロナウイルス対策」について公表いたします。



■ 実施体制

- 調査主体 株式会社サーベイリサーチセンター
<https://www.surece.co.jp/contact/>
SRC情報総研

■ 調査実施概要

- 地域調査 全国
但し、居住地は登録モニターの居住地に準じた。
- 調査方法 インターネット調査（インターネットリサーチモニターに対するクローズド調査）
- 調査対象 20歳以上男女モニター
※モニターはリンクオブアジアへの登録者105カ国約15,000人のパネルを活用。国別対象の設定は、2019年末法務省「国籍・地域別在留外国人数の推移」の構成比を参照し設定した。
- 調査項目 属性項目を含めて70問
- 有効回答 1037サンプル
- 調査内容 基本属性／右図参照
- 調査期間 2020年（令和2年）3月27日（金）配信開始～4月17日（金）調査終了

※各課題分類毎に順次レポートをリリースいたします。

< 設問の課題分類項目 >

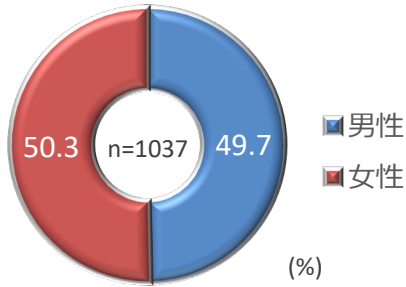
主なテーマ	内容	SDGs
収入・貧困	外国人の生活感と国内での境遇	1 貧困をなくそう
保健・福祉	外国人の保険(健)と健康と国内の社会システムへの適応 外国人の保証と国内の社会システムへの適応 コロナウイルス感染症等の防疫対策	3 健康と福祉
日本語対応・教育・いじめ	外国人の教育環境といじめなどの課題及び国内の教育システムへの適応	4 質の高い教育をみんなに
ジェンダー・不平等・人権等	外国人を含む共生や人権課題について	5 男女の平等をすすめる 10 人や国の不平等をなくそう
雇用環境・就業	外国人の就業環境や働きがい及び国内の就業システムへの適応	8 豊かで持続可能な雇用を創出する
持続可能な都市	外国人の住(コミュニティ)環境の課題や国内の居住及びコミュニティシステムへの適応 外国人を含む災害対策の在り方	11 持続可能な都市を創出する
平和	外国人との共生や国内の法律システムへの適応	16 平和と公正な社会を築く

■ 対象者属性

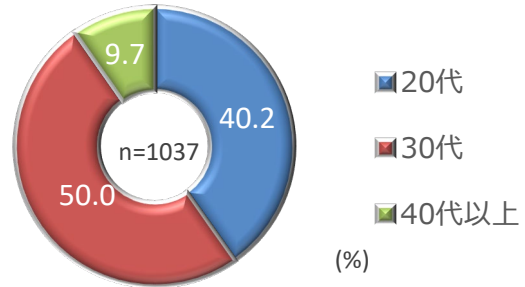
本調査の対象者の属性は下記に示します。

※ 性・年代・在留資格は「モニター」の登録属性に影響を受けているので、各種統計で公表されている割合等には合致しない。

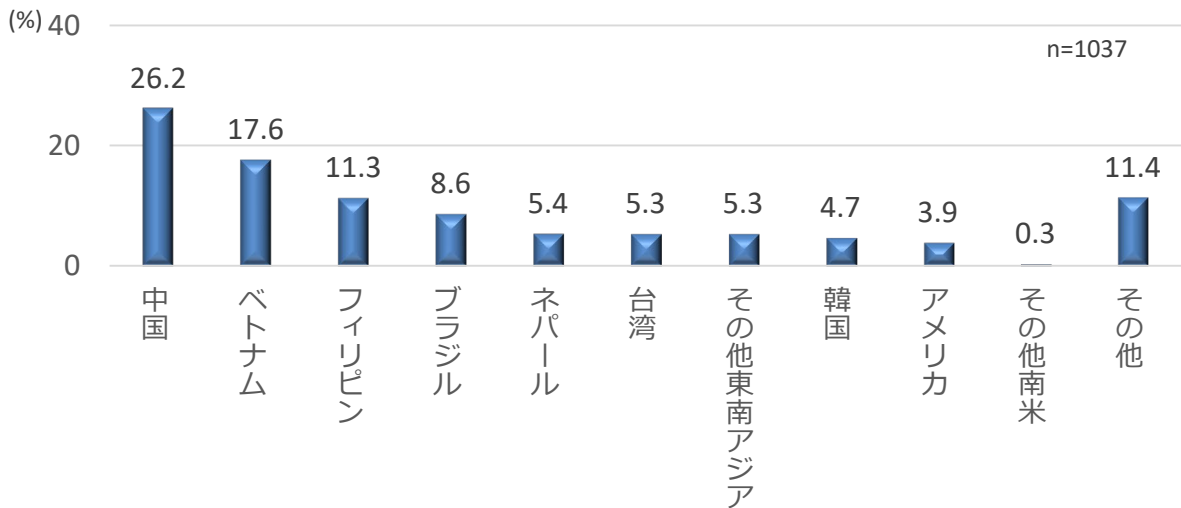
性別



年代

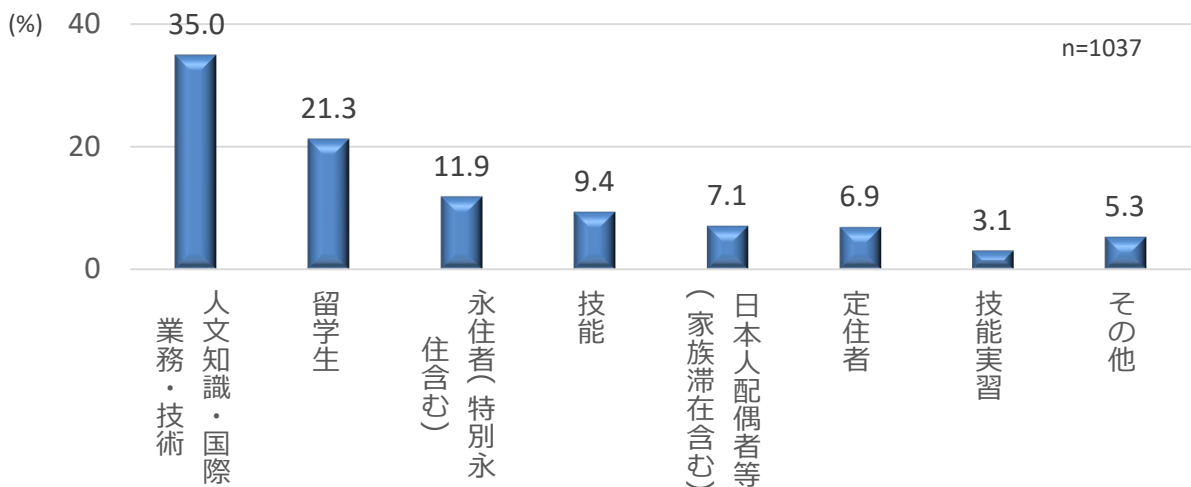


国籍統合



※ 国籍統合の国名は法務省「国籍・地域別在留外国人数の推移」統計の表記に合わせている。

在留資格統合



■ 調査結果のポイント

1. コロナウイルスに対する不安感 “不安感の程度は防疫への取り組みにも影響がある”

- 「不安感を持つ」(「とても不安を感じる+やや不安を感じる」)人は全体で85.2%。このうち「とても不安を感じる」との回答が39.5%であった。「とても不安を感じる」との回答は、「ネパール」(60.7%)「台湾」(54.5%)で特に高い。
同時期(2020年4月3日~4月6日)に実施した弊社の「【第2回】新型コロナウイルス感染症に関する国民アンケート」(「第2回国民アンケート」という。)の結果(45.1%)と比較すると「とても不安を感じる」人の回答はやや低い結果となった。
「不安感を持たない」(「あまり不安を感じない」+「全く不安を感じない」)人は全体では7.2%とわずかではあるが存在する。この「不安感を持たない」人は出身国別では「アメリカ」が顕著で、調査対象数は少ない(40サンプル)が42.5%の人が不安感を持っていない。また、年代では「40代以上」では15.8%の人が不安感を持っていない。
- 不安感のうち「とても不安を感じる」との回答は、属性だけではなく地域の「自治会への加入」や「日本語学習の動向」等の“地域との接点”と思われる項目によっても差があり、自治会に加入している人や日本語学習をした経験がある人の方が高い。また、「民間の保険に自分で加入している」や「定期健康診断を受診している」といった“健康維持への投資”と思われる項目によっても差があり、民間の保険に自分で加入している人や定期健康診断を受けている人の方が不安感が高い。

2. コロナウイルスに対する防疫行動 “女性より男性の方が取り組んでいる防疫行動が少ない”

- コロナウイルス感染症に関する「防疫行動」については、「手洗いやアルコール消毒」が80.9%と最も高く、次いで「咳エチケット・マスクの着用」が76.0%、「手すりやドアノブなどに触れた指先で目・鼻・口を触らない」が62.9%となり、これらが主な防疫行動となる。
- これらの防疫行動は性別でその実施率(各項目への回答率)に差があり、「手洗いやアルコール消毒」「咳エチケット・マスクの着用」の項目では男性が女性より約20%程度低くなっている。また、男性の30代及び40代以上で「咳エチケット・マスクの着用」が他の属性よりも低く、「手洗いやアルコール消毒」では男性の30代ではおおむね半数程度となっている。また、出身国別では「ネパール」の各項目の実施率が他国よりも低い。
- 一方で、コロナウイルス感染症の症状の特徴的な把握方法である「定期的な体温測定」については、全体で27.1%と概ね4人に1人程度しか実施しておらず、性別の差はない
- 不安感の意識では、「とても不安を感じる」人ではマスクや手洗い等の基本的な事項に加えて、「手すりやドアノブなどに触れた指先で目・鼻・口を触らない」や「定期的な体温測定」の実施率もやや高く、不安意識の差が防疫行動にも表れている。

3. コロナウイルスに関する困難事項 “出身国により日本語問題で収受する情報も課題となり影響が大きい”

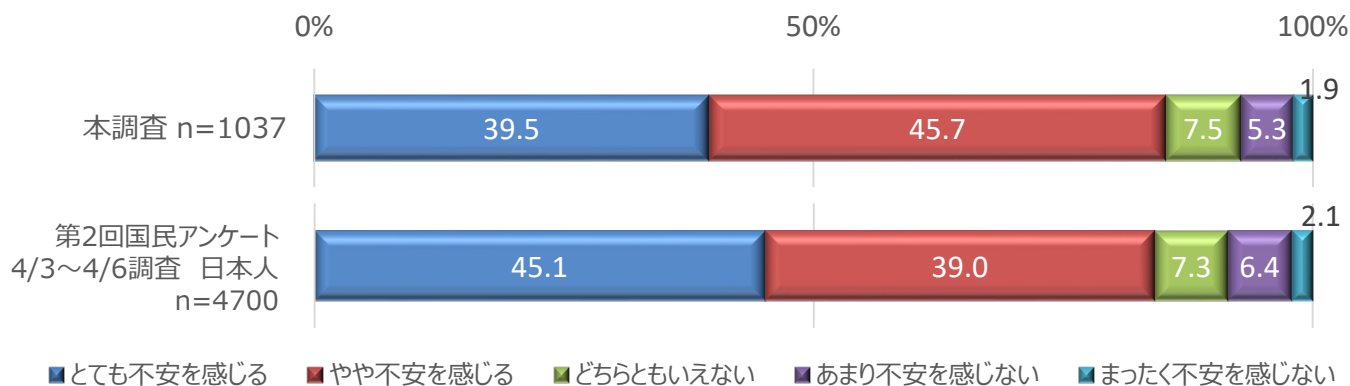
- コロナウイルス感染症に関して困っている事項については、「陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい」が34.8%と最も多い。次いで、「PCR検査までのしくみがわかりづらい」で31.9%、「コロナウイルスの状況や今後の対策等の情報がわかりにくい」が28.2%となり、この3項目が困っている主な内容となる。
- 一方、「テレビ等の情報が日本語中心のためわかりづらい」や「母国語のパンフレットが無いためわかりづらい」という、日本語に対する困難さが顕著なのは男性で、特に男性30代となり、出身国別では「ネパール」「フィリピン」「ベトナム」において日本語問題が顕著な傾向として見られている。
- 刻々と変化する毎日の罹患状況や国、自治体の方針も日々動いている。この中でマス媒体は連日ニュースや特別番組として扱い、日本人でも咀嚼が難しい状況にあるため、在留外国人の日本語力などの程度により、その内容の理解にも大きな影響を与えている。

■ コロナウイルス感染に関する不安

1 自分が感染する不安感は年代や出身国で若干異なる

- コロナウイルス感染症に関する「不安感」は、「やや不安を感じる」が45.7%、「とても不安を感じる」が39.5%となり、合わせて不安感を持つ人(「とても不安を感じる+やや不安を感じる」)は85.2%となる。
- この結果を同時期(2020年4月3日~4月6日)に実施した弊社の「第2回国民アンケート」結果と比較すると、全国アンケートでは「とても不安を感じる」が45.1%であったが、本調査では「とても不安を感じる」が39.5%となり、強い不安を持つ人割合に若干の差がみられる。
- 年代別に見ると、不安を持つ人は「40代以上」で70.3%となり、20代84.5%、30代88.9%と比較すると低くなる。一方で「あまり不安を感じない」9.9%や「全く不安を感じない」が5.9%となり、概ねこの年代の15%程度の人にはコロナウイルスに関しての不安感はないことになる。
- 出身国別にみると、「とても不安を感じる」との回答は、「ネパール」が60.7%と最も高く、次いで「台湾」が54.5%とこの両国出身者はかなり不安感が高い。一方で、「アメリカ」では15.0%と他国と比較すると極めて不安感が高く、「あまり不安を感じない」27.5%、「全く不安を感じない」15.0%とこれを加えると42.5%と概ね半数が不安を感じていないことになり、出身国により極端な差がみられる。また、出身国が「アメリカ」の対象者は「40代以上」が40%を占めており、n数(全体に占めるアメリカの人数)は少ないものの、年代別不安感にも影響を与えていると思われる。

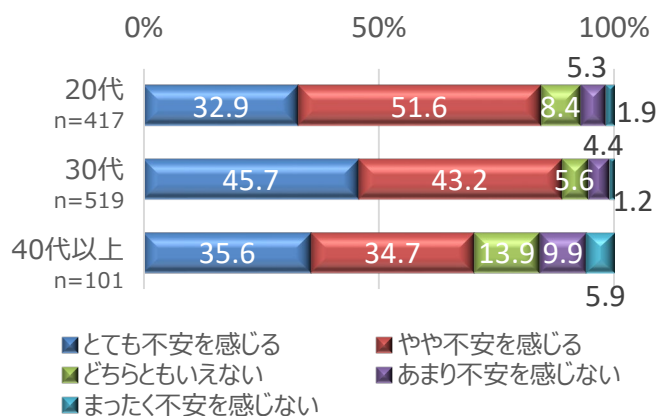
Q43-1 コロナウイルス感染に関する不安



国籍別

	調査数	とても不安を感じる	やや不安を感じる	どちらともいえない	あまり不安を感じない	まったく不安を感じない
全体	1037	39.5	45.7	7.5	5.3	1.9
中国	272	36.4	52.2	8.8	2.2	0.4
韓国	49	42.9	36.7	6.1	12.2	2.0
フィリピン	117	46.2	45.3	6.0	1.7	0.9
ブラジル	89	46.1	47.2	3.4	3.4	-
ベトナム	183	36.1	54.1	3.8	4.4	1.6
ネパール	56	60.7	37.5	1.8	-	-
アメリカ	40	15.0	30.0	12.5	27.5	15.0
台湾	55	54.5	36.4	9.1	-	-
その他東南アジア	55	43.6	43.6	9.1	1.8	1.8
その他南米	3	33.3	33.3	-	33.3	-
その他	118	28.8	35.6	15.3	14.4	5.9

年代別



■ コロナウイルス感染に関する不安

2 不安感は属性だけでなく“地域接点”“日本語”“健康維持への意欲”によっても若干差がある

● コロナウイルス感染症に関する「不安感」を属性以外の項目において、「とても不安を感じる」と明確に不安感を肯定した回答を見ると顕著な差がみられる。

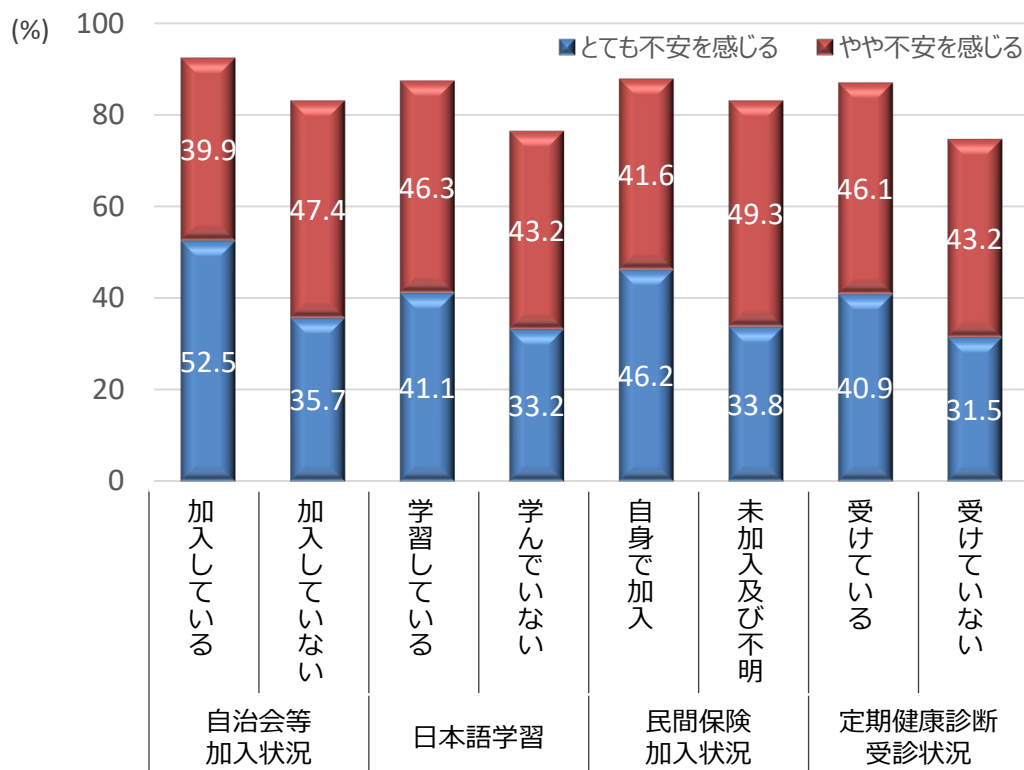
- ・ 自治会等の加入状況では、「加入している」人では52.5%となり、「加入していない」人では35.7%である。
- ・ 日本語の学習状況では、「学習している」人では41.1%となり、「学んでいない」人では33.2%である。
- ・ 民間の健康保険等の加入状況では、「自身で加入している」人では46.2%となり、「未加入及び不明」の人では33.8%である。
- ・ 定期健康診断の受診状況では、「受けている」人では40.9%となり、「受けてない」人では31.5%である。

上記のような結果から、出身国や年代以外に「自治会等の加入状況」や「日本語の学習状況」「民間の健康保険の加入状況」「定期健康診断の受診状況」の項目において、不安感に顕著な差があることがわかる。

強い不安感を持つか持たないかは防疫行動に影響を及ぼすが、自治会に加入したり、日本語学習をしたり、健康保険に入っていたり、定期健康診断を受診していたりといずれも“地域接点”“日本語”“健康維持への意欲”を持っている人の方が、強い不安感を持っていることがわかる。

Q43 コロナウイルス感染に対する不安

「とても不安を感じる」「やや不安を感じる」との比較

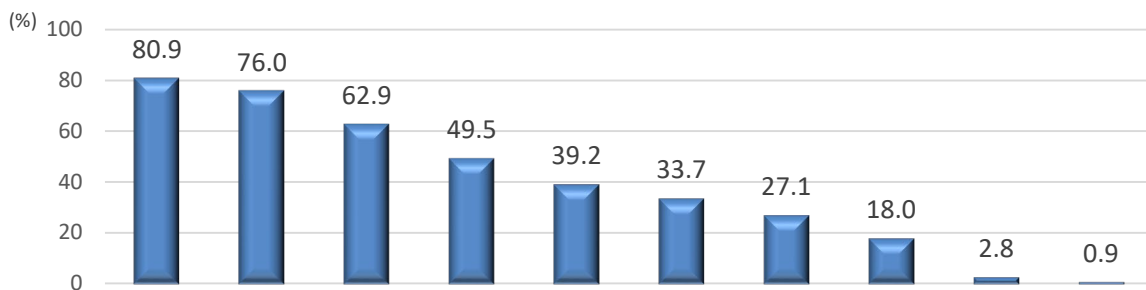


■ コロナウイルス感染に関する防疫行動

3 防疫行動の実施率は性別により若干の差があり、特に「30代男性」は低い

- コロナウイルス感染症に関する「防疫行動」については、「手洗いやアルコール消毒」が80.9%と最も高く、次いで「咳エチケット・マスクの着用」が76.0%、「手すりやドアノブなどに触れた指先で目・鼻・口を触らない」が62.9%となり、これらが主な防疫行動となる。
- 一方で、コロナウイルス感染症の症状の特徴的な把握方法である「体温測定」については、全体で27.1%と概ね4人に1人程度しか実施しておらず、性別の差はない。
- また、日本では風邪予防などとして子供のころから慣習化している「うがい」については、39.2%と防疫対策としては高くはない。しかし、欧米諸国などは水道水でうがいをする習慣などはほとんどなく、こうした部分は“日本流”に馴染んでいるようにも思われる。
- 性別に「防疫行動」を見ると男女に大きな差がある項目がある。
最も実施されている防疫行動である「手洗いやアルコール消毒」では男性が70.7%であるのに対して、女性では91.0%となり大半が実施していることになる。また、「咳エチケット・マスクの着用」では男性が66.2%であるのに対して女性では85.6%となり、主な防疫行動のこの両項目においてその対策実施率は女性が男性を上回っている。特に、「咳エチケット・マスクの着用」については、「男性30代」の実施率が57.8%と最も低く、「手洗いやアルコール消毒」でも58.8%でありこの属性の実施率が低い。

Q43-2 コロナウイルス感染に関する防疫行動について



	n	手洗いやアルコール消毒	咳エチケット・マスクの着用	手すりやドアノブなどに触れた指先で目・鼻・口を触らない	屋内の換気	うがい	良く触れるものの消毒や洗浄	定期的な体温の測定	同居者のタオル類の使い分け	その他	特になし
全体	1037	80.9	76.0	62.9	49.5	39.2	33.7	27.1	18.0	2.8	0.9
男性	515	70.7	66.2	61.4	45.6	37.7	30.3	24.5	17.5	1.9	1.4
女性	522	91.0	85.6	64.4	53.3	40.8	37.0	29.7	18.6	3.6	0.4

性年代別

(%)

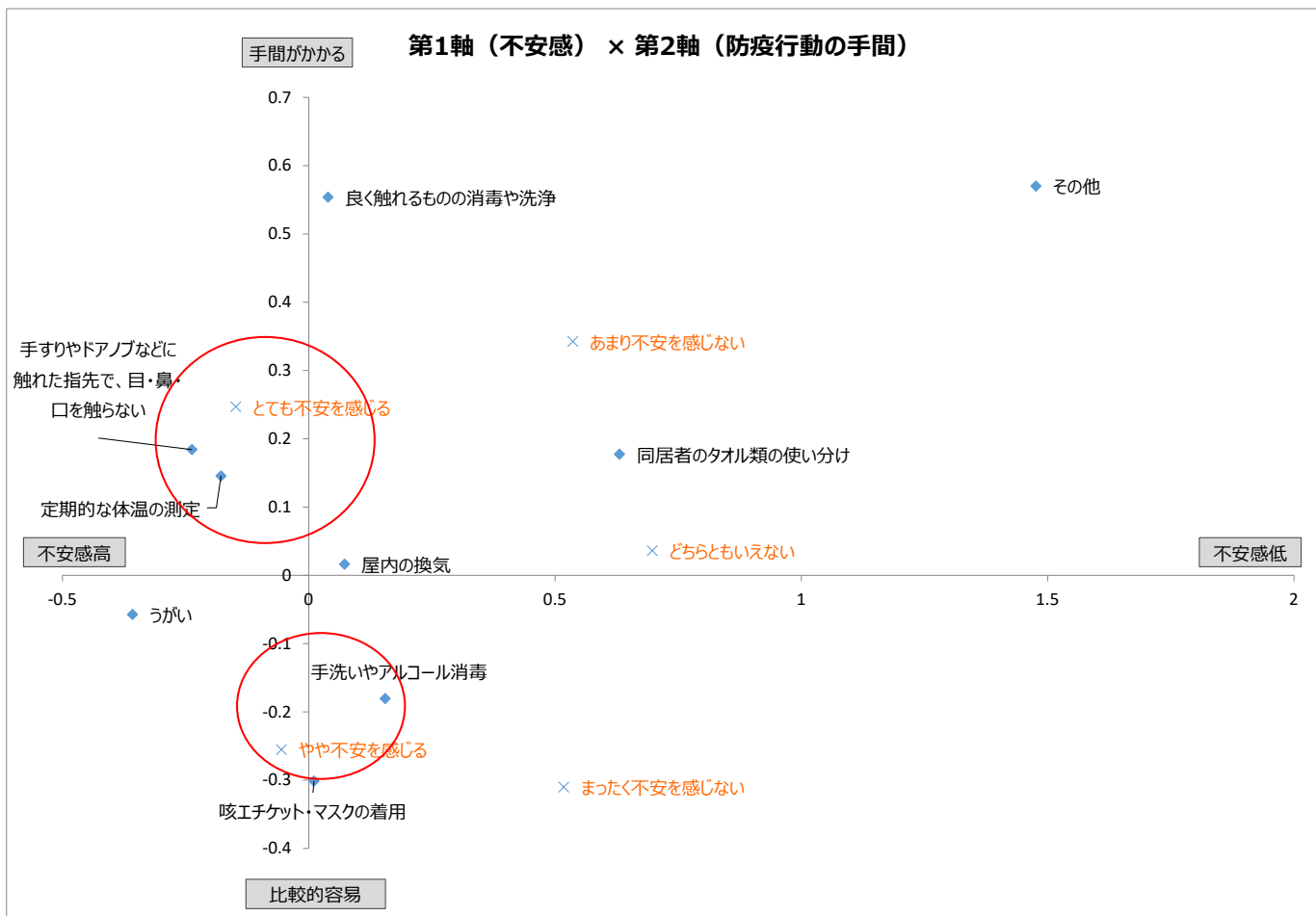
		咳エチケット・マスクの着用	手洗いやアルコール消毒
全体		76.0	80.9
男性	20代 n=161	83.2	90.1
	30代 n=313	57.8	58.8
	40代以上 n=41	63.4	85.4
女性	20代 n=256	86.7	90.2
	30代 n=206	86.4	92.7
	40代以上 n=60	78.3	88.3

■ コロナウイルス感染に関する防疫行動

4 防疫行動は不安感により差がある

- コロナウイルス感染症に対する「不安感」と「防疫行動」との関連を見ると、「とても不安を感じる」人では、「手すりやドアノブなどに触れた指先で目・鼻・口を触らない」や全体としては低率である「体温測定」についても実施している割合が高く、不安感の低い人では多くの防疫行動がとられていないことがわかる。したがって、不安感が高い層では手間がかかる防疫行動にも取り組んでいると思われる。

Q43-2 コロナウイルス感染に関する防疫行動について(不安感と防疫行動との関係)



注:上記散布図は、「不安感と防疫行動」のクロス集計で算出した値を、コレスポンデンス分析として表した図。

■ コロナウイルス感染に関する防疫行動

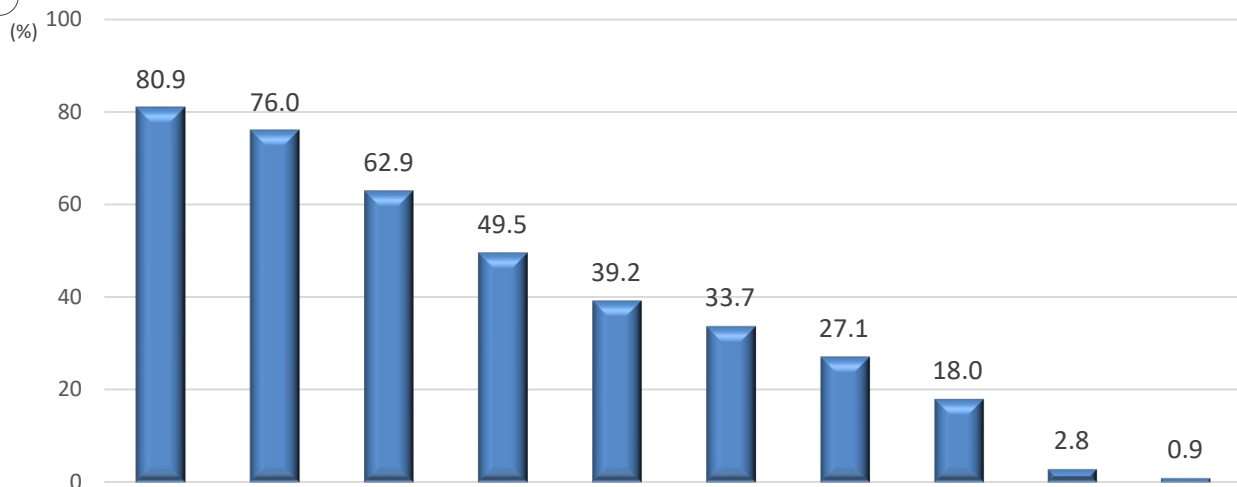
5 防疫行動の実施項目は「フィリピン」で高く、「ネパール」で低い

● コロナウイルス感染症に関する「防疫行動」ごとに出身国別に特性を見る。

- 「手洗いやアルコール消毒」については、「韓国」「ブラジル」で実施率が高く、「ネパール」「ベトナム」で低い。
- 「咳エチケット・マスクの着用」については、「ブラジル」「台湾」で実施率が高く、「ネパール」「ベトナム」「アメリカ」で低い。
- 「手すりやドアノブなどに触れた指先で目・鼻・口を触らない」については、「フィリピン」「アメリカ」で実施率が高く、「ブラジル」で低い。
- 「屋内の換気」については、「中国」で高く、「ブラジル」「ネパール」で低い。
- 「うがい」については、「ブラジル」「フィリピン」「ベトナム」で高く、「アメリカ」で低い。
- 「良く触れるものの消毒や洗浄」については、「アメリカ」「フィリピン」で高く、「ネパール」「ベトナム」「ブラジル」で低い。
- 「定期的な体温の測定」については、「韓国」「ネパール」で低い。

Q43-2 コロナウイルス感染に関する防疫行動について

国籍別



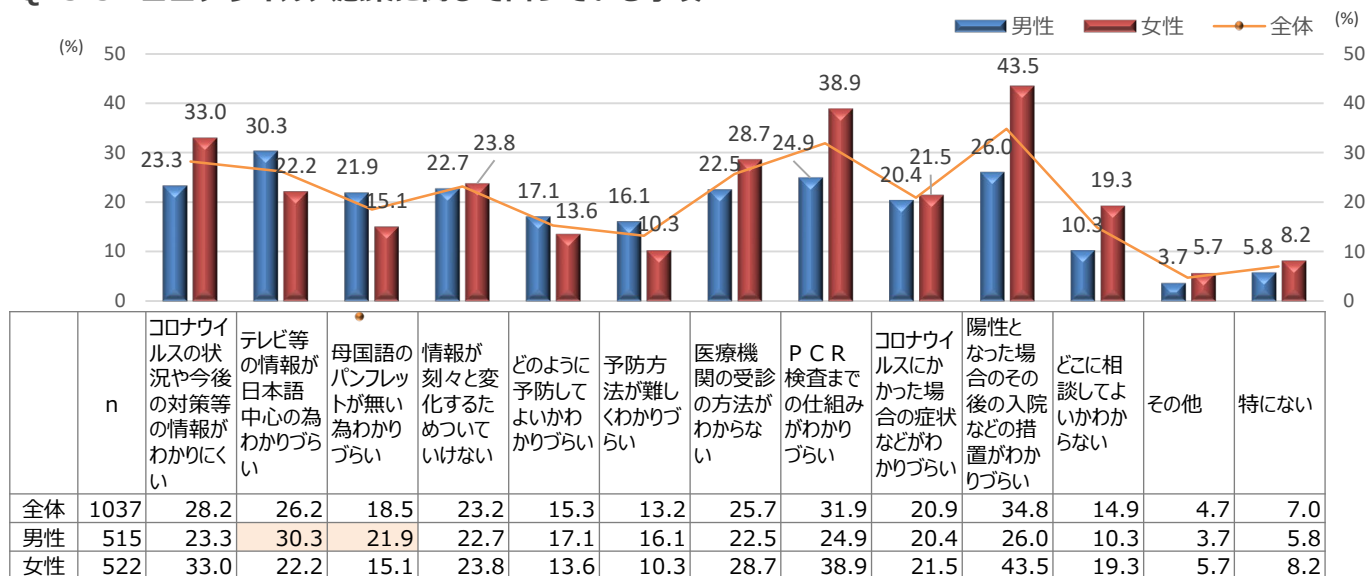
	n	手洗いやアルコール消毒	咳エチケット・マスクの着用	手すりやドアノブなどに触れた指先で、目・鼻・口を触らない	屋内の換気	うがい	良く触れるものの消毒や洗浄	定期的な体温の測定	同居者のタオル類の使い分け	その他	特にない
全体	1037	80.9	76.0	62.9	49.5	39.2	33.7	27.1	18.0	2.8	0.9
中国	272	78.3	80.9	56.3	59.9	31.3	37.1	30.1	16.9	0.4	1.1
韓国	49	93.9	73.5	55.1	40.8	36.7	28.6	14.3	6.1	2.0	2.0
フィリピン	117	77.8	76.1	76.1	52.1	55.6	45.3	30.8	26.5	4.3	-
ブラジル	89	91.0	89.9	49.4	38.2	60.7	22.5	31.5	7.9	1.1	-
ベトナム	183	72.7	68.3	64.5	49.2	49.2	21.9	21.3	15.8	-	-
ネパール	56	57.1	53.6	69.6	37.5	39.3	16.1	17.9	12.5	-	-
アメリカ	40	90.0	67.5	75.0	47.5	20.0	52.5	32.5	20.0	10.0	5.0
台湾	55	87.3	89.1	69.1	52.7	27.3	41.8	32.7	16.4	5.5	1.8
その他東南アジア	55	83.6	74.5	58.2	41.8	29.1	32.7	23.6	25.5	1.8	1.8
その他南米	3	100.0	66.7	100.0	-	66.7	33.3	66.7	-	33.3	-
その他	118	93.2	75.4	66.9	44.9	27.1	41.5	28.0	28.0	10.2	0.8

■コロナウイルス感染に関して困っている事項

6 コロナウイルスに関しての困難事項は「入院措置」や「検査方法」が主な内容

- コロナウイルス感染症に関して困っている事項については、「陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい」が34.8%と最も多い。次いで、「PCR検査までのしくみがわかりづらい」で31.9%、「コロナウイルスの状況や今後の対策等の情報がわかりにくい」が28.2%となり、この3項目が困っていることの内容となる。
- 性別で特徴的な項目を見ると、「陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい」、「PCR検査までのしくみがわかりづらい」、「コロナウイルスの状況や今後の対策等の情報がわかりにくい」という全体の主要項目では女性の方が困難さを感じている人が多い。一方、男性では「テレビ等の情報が日本語中心のわかりづらい」や「母国語のパンフレットが無いわかりづらい」という、日本語に対する困難さが顕著にあらわれている。
- 「テレビ等の情報が日本語中心のわかりづらい」との回答は、「男性30代」で35.8%と最も多く、「母国語のパンフレットが無いわかりづらい」との回答も、「男性30代」で23.6%と最も多くなっており、30代男性の言語対応に課題がある。
「テレビ等の情報が日本語中心のわかりづらい」との回答を出身国別にみると、「ネパール」が46.4%と最も多く、次いで「フィリピン」が39.3%となり他の国よりもここを課題とする人が多い。「母国語のパンフレットが無いわかりづらい」との回答を出身国別にみると、「ネパール」が30.4%と最も多く、次いで、「ベトナム」が26.8%と次いでいる。

Q43-3 コロナウイルス感染に関して困っている事項



国籍別

(%)

国籍	テレビ等の情報が日本語中心のわかりづらい (%)	母国語のパンフレットが無いわかりづらい (%)
全体	26.2	18.5
中国	13.2	17.6
韓国	14.3	6.1
フィリピン	39.3	18.8
ブラジル	28.1	18.0
ベトナム	30.6	26.8
ネパール	46.4	30.4
アメリカ	27.5	12.5
台湾	12.7	5.5
その他東南アジア	32.7	14.5
その他南米	-	-
その他	33.9	17.8

性年代別

(%)

性年代	テレビ等の情報が日本語中心のわかりづらい (%)	母国語のパンフレットが無いわかりづらい (%)
全体	26.2	18.5
20代 n=161	21.1	19.3
男性 30代 n=313	35.8	23.6
40代以上 n=41	24.4	19.5
20代 n=256	25.0	14.5
女性 30代 n=206	19.4	16.0
40代以上 n=60	20.0	15.0

■コロナウイルス感染に関して困っている事項

7 出身国別困難事項では「日本語」問題も課題

- コロナウイルス感染症に関して困っている事項について、出身国別に上位項目を見ると下表に示す一覧になる。
 - ・ 中国については、「検査・医療関連」に対して回答が高い。特に「陽性になった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい」との回答が45.2%とトップ。
 - ・ 韓国についても「検査・医療関連」に対して回答が高い。
 - ・ フィリピンについては、「日本語関連」がトップで、次いで「検査・医療関連」
 - ・ ブラジルもフィリピンと同様
 - ・ ベトナムもフィリピンと同様
 - ・ ネパールは特に「日本語関連」に対する回答が高く、また、「検査・医療関連」よりも「予防関連」の回答が他国よりも高い。
 - ・ アメリカは他国よりも「検査・医療関係」も項目は低く、「情報の進捗関連」を課題視している。
 - ・ 台湾はアメリカと同様だが、「検査・医療関係」を課題視している。

※下表に示すように「〇〇関連」とカテゴライズしている項目を「色で分類」している。

Q43-3 コロナウイルス感染に関して困っている事項

	1位	2位	3位	平均回答数
中国	陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい 45.2%	P C R 検査までの仕組みがわかりづらい 37.5%	医療機関の受診の方法がわからない 33.5%	2.989
韓国・	P C R 検査までの仕組みがわかりづらい 46.9%	陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい 42.9%	コロナウイルスの状況や今後の対策等の情報がわかりにくい 42.9%	2.959
フィリピン	テレビ等の情報が日本語中心の為わかりづらい 39.3%	P C R 検査までの仕組みがわかりづらい 28.2%	陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい 28.2%	2.821
ブラジル	テレビ等の情報が日本語中心の為わかりづらい 28.1%	情報が刻々と変化するためついていけない 24.7%	医療機関の受診の方法がわからない、陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい 23.6%	2.135
ベトナム	テレビ等の情報が日本語中心の為わかりづらい 30.6%	陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい、 27.9% コロナウイルスの状況や今後の対策等の情報がわかりにくい 27.9%	母国語のパンフレットが無い為わかりづらい 26.8%	2.667
ネパール	テレビ等の情報が日本語中心の為わかりづらい 46.4%	どのように予防してよいかわかりづらい 35.7%	母国語のパンフレットが無い為わかりづらい 30.4%	2.393
アメリカ	情報が刻々と変化するためついていけない 45.0%	P C R 検査までの仕組みがわかりづらい 37.5%	コロナウイルスの状況や今後の対策等の情報がわかりにくい 35.0%	2.850
台湾	陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい 56.4%	コロナウイルスの状況や今後の対策等の情報がわかりにくい 47.3%	P C R 検査までの仕組みがわかりづらい 41.8%	3.800
その他 東南アジア	コロナウイルスにかかった場合の症状などがわかりづらい 41.8%	P C R 検査までの仕組みがわかりづらい 36.4%	テレビ等の情報が日本語中心の為わかりづらい 32.7%	3.164
その他	P C R 検査までの仕組みがわかりづらい 37.3%	陽性となった場合のその後の入院などの措置がわかりづらい 33.9%	テレビ等の情報が日本語中心の為わかりづらい 33.9% コロナウイルスの状況や今後の対策等の情報がわかりにくい 33.9%	2.941

検査・医療関連

日本語関連

情報の進捗関連

予防関連

■サーベイリサーチセンター 会社概要

- 会社名 : 株式会社サーベイリサーチセンター
- 所在地 : 東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号

- 設立 : 1975 (昭和50) 年2月
- 資本金 : 6,000万円
- 年商 : 74億円 (2019年度)

- 代表者 : 代表取締役 藤澤 士朗、長尾 健、石川 俊之
- 社員数 : 社員271名、契約スタッフ456名 合計724名 (2020年3月1日現在)
- 事業所 : 東京 (本社)、札幌、盛岡、仙台、静岡、名古屋、大阪、岡山、広島、高松、福岡、熊本、那覇

- 主要事業 : 世論調査・行政計画策定支援、都市・交通計画調査、マーケティング・リサーチ

- 所属団体 : 公益財団法人 日本世論調査協会
一般社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会 (JMRA)
日本災害情報学会
一般社団法人 交通工学研究会 他

- その他 : ISO9001認証取得 (2000年6月)
プライバシーマーク付与認定 (2000年12月)
ISO20252認証取得 (2010年10月)
ISO27001認証取得 (2015年11月) ※

※認証区分及び認証範囲 :

- ・MR部及びGMR部が実施するインターネットリサーチサービスの企画及び提供
- ・全国ネットワーク部及び沖縄事務所が実施する世論・市場調査サービスの企画及び提供

■本件に関するお問合せ先

株式会社サーベイリサーチセンター <https://www.surece.co.jp/>

- 広報担当 : 松下 正人 E-mail : src_support@surece.co.jp
品質部
TEL : 03-3802-6779 FAX : 03-3802-6729

- 調査担当 : 石川 俊之 E-mail : ishi_t@surece.co.jp
岩崎 雅宏 E-mail : iwa_m@surece.co.jp
営業企画本部
TEL : 03-3802-6727 FAX : 03-3802-7321

- 調査結果の引用にあたっては、調査主体名として「株式会社サーベイリサーチセンター」を必ず明記して利用してください
- 調査結果の無断転載・複製を禁じます
- 本紙に記載している情報は、発表日時点のものです